令和3年度　体育部会研究計画

１　研　究　主　題

豊かな学びが　子供の未来をつくる　体育学習

―「おもしろいコト」の共有から学びをスタートする授業づくり―

２　主題設定の理由

(1)　主題設定の理由

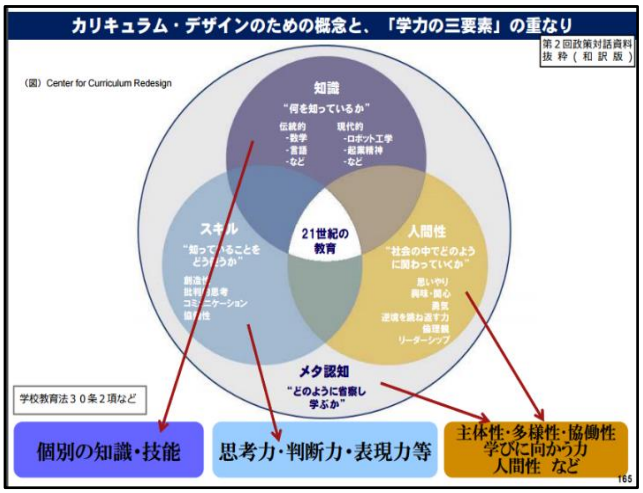
①　育成を目指す「資質・能力」とは

学習指導要領の前文には「これからの学校には，教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値ある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示されている。

また，徳島県小学校教育研究会の主題には，「自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として，その主題設定の理由のなかに「『予測不能な社会に対応する力をつけていく』という発想から『子供自らが変化を創り出す力をつけていく』という発想への転換が必要である。」とし，子供が予測困難な時代を生きていくための力を育成する重要性が示されている。＊[1]

学習指導要領においては，知・徳・体にわたる「生きる力」（学校教育に求められる資質・能力＊[2]）を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら，すべての教科等の目標や内容について三つの柱で再整理された。＊[3]また，「第２回政策対話　資料抜粋（和訳版）」によると，下の図①のように，学力の三要素として子供に育成したい資質・能力を三つの柱に関連させている。

さらに，学習指導要領総則第１章総則には，教科等ごとの枠の中だけではなく，教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり，他の教科等における指導との関連付けを図りながら，幅広い学習や生活の場面で活用できる力（以下教科等横断的な資質・能力[説明]）を育むことを目指したりしていくことも重要となるとされた。この力については，上の図「学力の三要素」のなかに示されているように，子供に育成したい資質・能力と関連していることがわかる。



図①：第２回政策対話　資料抜粋（和訳版）

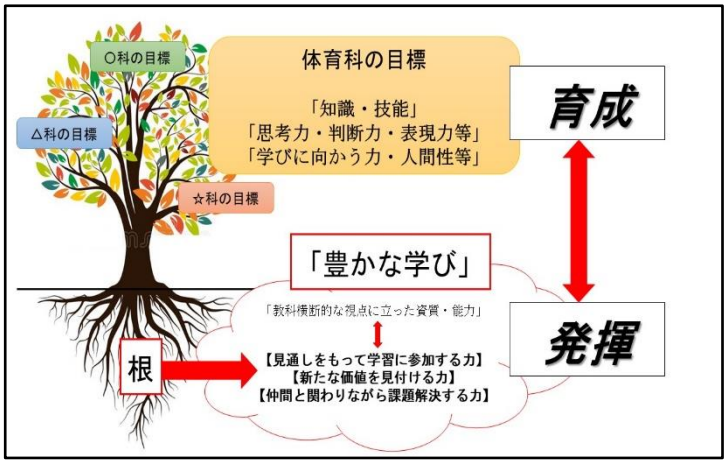
カリキュラム・デザインのための概念と，「学力の三要素」の重なり

②　「豊かな学びが子供の未来をつくる」とは

そこで，体育科では，研究主題を「豊かな学びが　子供の未来をつくる　体育学習」とし，体育科の特質を生かしつつ，「豊かな学び」を行うことで，よりよい未来を切り開いていく子供を育てていきたいと考えた。「豊かな学び」については，体育の学習の中で，子供たちが教科等横断的な視点に立った資質・能力を豊かに発揮している学びであり，昨年度と同様に「見通しをもって

学習に参加し，新たな価値を見出し，仲間と関わりながら課題解決に挑戦しようとする学び」としたい。

ベースボール型のボール運動で説明すると,「勝敗」という結果だけに着目するのではなく,「攻防（本質的なおもしろさ)」という「そこで行われている出来事」に着目して授業を行った。そうすることで，前時までの学びをふり返り，本時で自分がどのようなことに挑戦するかを決めて活動に参加したり,「どうすれば次の塁に進めるか」ということを友達と関わって技術情報を共有したりする子供の姿が見られた。その結果として，攻防に必要な知識の獲得や動きの高まりもみられた。このように,「豊かな学び」を行うことで，体育科の目標も達成できるのではないかと考える。



図②：「豊かな学び」と体育科の目標の関係

以上のことから，本部会が目指す体育学習について図②のように，樹木の生長を例に考えた体育科の目標，つまり花や実ができることだけを目的とするのではなく，同時に，幹や葉がたくましく育つことや，根をしっかりと伸ばしていくことも意識していかなくてはいけない。目に見える部分である，花や実，幹や葉を「知識及び技能」「思考力，表現力，判断力等」「学びに向かう力，人間性等」，根を「教科等横断的な視点に立った資質・能力」と考えると「豊かな学び」の必要性が実感できる。持続可能な社会の創り手として，子供が生涯にわたってスポーツに関わることや，生涯にわたって健康な生活を送るための体育科の目標の達成を「大きな樹木へと生長する」，つまり「子供の未来をつくる」と考え，体育学習を通してどのような学びを行っていくか研究していく。

(2)　副主題設定の理由

①　「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることについて

なぜ，今，本質的なおもしろさ[説明]の中にある「おもしろいコト[説明]」に注目して学習を進めていこうとしているのか。それは,「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることで，豊かな学びを実現することができると考えたからである。

例えば，ベースボール型のボール運動では,「ホームランを打ちたい」「勝ちたい」など異なる意識をもって学習を進めると仲間と関わりながら課題解決することが難しい。しかし,「おもしろいコト（塁を盗るコト盗らせないコト)」を共有することで子供たちが同じ意識（誰もいないところ狙ってみよう，等間隔に並んで守ろう）で学びを進めていくことができる。また，そこから生まれた課題を他者と分かち合うことで，課題を解決するための見通し（次はもっとこうしてみよう）をもって学習に参加することができるようになったり，新たな価値（自分がアウトになってもいいんだ）に気付いたりしながら子供たちが主体的に学習に参加することができるようになり，体育科の目標も達成できるのではないかと考えた。

このように,「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることで，どんなことをこれから

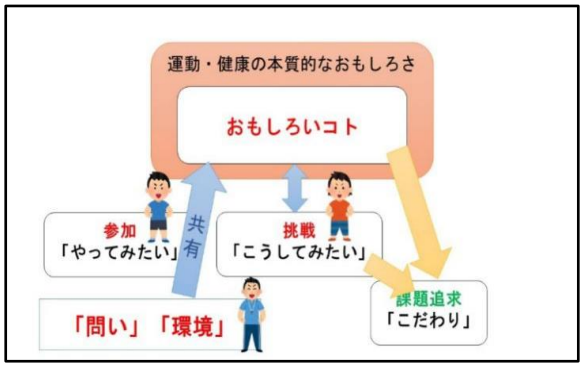
学んでいくのかを共有し，子供たちみんなが同じ意識（おもしろいコトに関わる課題を解決していこう）で学びを進めていくことができる。そして，そこから生まれる課題を解決していこうとする中で，子供たちは今，自分には何が必要なのかということを考え，自分なりの最適解を見付けていく。このような学びが子供の未来をつくる「豊かな学び」であると考えられる。

そのために，どのようにして「おもしろいコト」の共有を図り，学習をスタートしていけばよいか。また，課題解決を行う際にどのような支援をしていけばよいかを研究していく意味はとても大きい。

３　研　究　内　容

○　昨年の研究を踏まえ，副主題『「おもしろいコト」の共有からスタートする授業づくり』に取り組み，「豊かな学び」を実現できるようにしていく。

まずは，「運動・健康の本質的なおもしろさ」の中にある「おもしろいコト」へと参加できるようにする。そして，「おもしろいコト」の共有から生まれてくる課題を解決するために夢中になって運動したり（挑戦），健康について考えたり（追求）できるようにする。



図③：「おもしろいコトの共有」のイメージ

このような，研究主題の解明に向けた授業づくりを行うために，次の研究内容に取り組む。

(1)　すべての子供が「おもしろいコト」を共有するための支援

①　「環境（場やルール）」や「問い」の設定について

ア　運動領域では

運動領域においては，「運動の本質的なおもしろさ」から，「おもしろいコト」に意識が向くような「環境」（場やルール）を設定し，「おもしろいコト」へと誰もが参加できるようにする。そして，子供たちの意識が「おもしろいコト」に向いてきた状況を見取り「問い」を出す。もし，子供たちの意識が十分に「おもしろいコト」に向いていない場合は「環境」を設定し直して「おもしろいコト」の共有を図ることが必要である。

例えば，ベースボール型のボール運動で考えてみると，「攻防するおもしろさ」から「おもしろいコト」に意識が向くような「環境」を設定し，「塁を盗る，塁を盗らせない」という「おもしろいコト」へと参加できるようにする。そして，この学習では「塁を盗る，塁を盗らせない」ということを考えていくという子供たちの意識を見取り，学習のふり返りを通して，「どのようにして塁を盗るか盗らせないようにするか」についてみんなで学習していくことを共有する。これが，「おもしろいコト」の共有である。もし，子供たちの意識が十分に「おもしろいコト」に向いてこなければ「環境」を設定しなおし，子供たちの意識が「おもしろいコト」に向いてくるようにする。

「おもしろいコト」の共有を図ることができたら，「どのようにしたら塁が盗れるかな，塁を盗らせないようにできるかな」という「問い」を出し，子供たちがそこから生まれる課題（どこを狙おうかな，どうやって守ろうかな）について培いたい資質・能力を発揮させながら今の自分に必要な最適解を見付けることができるようにする。

イ　保健領域では

保健領域では,「探求するおもしろさ」という本質的なおもしろさの中で,「『保健領域の学習内容』について考えるコト」が「おもしろいコト」ととらえ，健康・安全に関して，積極的に自分事としてとらえることができるように単元を構想する。単元のはじめには，子供一人一人の生活習慣調査やウェビングマップなどの方法で、自分自身の健康に対する認識を確認したり、健康に対するイメージを話し合ったりできるような「環境」を整える。そうすると，「けがの防止」や「病気の予防」について新たな気付きや発見が出てくるだろう。そこで，子供にとって切実性を感じられるような「問い」を提示することにより，子供は，問いのテーマに沿って「保健領域の学習内容」について自分や自分の周りのこととして考えていこうとするだろう。このような状態を「おもしろいコト」の共有であると考える。

教師は，科学的な知識をただ伝達するのではなく，子供たちが切実性をもって課題を解決できるようにして,子供一人一人の健康に対する思いや認識に寄り添うようにする。そして，子供自身が「おもしろいコト」の共有から生まれた課題を自分や自分の周りのこととして探求していくことを大切にする。子供が探求していきたいと思っている課題ごとにグループに分かれて，それぞれが課題を探求し，学級全体で学びを分かち合っていくという授業も考えらえる。

⑵　子供の実態把握と学びの状況にあった支援

①　子供の実態把握について

昨年行われた実践では,「運動・健康の本質的なおもしろさ」の共有を行うためには，子供の学習準備状況や運動・健康に対するイメージを想像することが大切であると多くの報告があった。すべての子供が体育学習に対して興味があるわけではないことを知り，単元計画を行う際に子供への事前調査を実施し，実態の把握に努めた。事前調査は,「実態把握と実態に合ったかかわり」,「学習材の工夫」,「子供の姿を見ること」などのために必要であり，アンケート形式にとらわれずに，子供の思いが表出できる方法で行うことが望ましいと考える。

また，単元のはじめだけでなく，子供の学習の様子やふり返りから学びの状況を的確につかむことが大切である。子供たちをどう評価するかということである。評価とは,「児童の学習改善につながっていくものにしていくこと」「教師の指導改善につながるものにしていくこと」とされている。つまり，教師は，子供たちが課題解決に向けて取り組んでいく中で何をしようとしているのか，何につまずいているのかを見取り的確に評価し支援を考えていくようにしていく。学習課題がなかなか見つからない子供には，困り感やつまずきがどこにあるのかを教師が一緒に考え，自分なりの課題を見つけられるようにすることも考えられる。今，子供たちが何を求めているのかということを見取り，単元展開や支援などの改善につなげていく。

また，授業の中で教師が見取ることができなかった子供の思いや気付きを把握するために，副読本の「学習のあしあと」のページに記入した毎時間の振り返りを活用する。そして，子供一人一人の振り返りから，子供の意識の流れに沿った単元計画へと修正したり，次時の関わり方を想定したりして，本時の問いを立てる。

② 学びの状況にあった支援について

事前調査の結果や学びの状況から，「意欲的に参加する子供は何がおもしろいのか」や「何が原因で，積極的に参加しないのか」を明らかにすることができる。つまり，単元構想時に子供の意識や学びの姿から，子供の意識やつまずきを予想することができると考える。すると，子供の思いや願いに応えるために教師の関わり方を事前に考えておくことができ，授業では柔軟な対応ができるであろう。例えば,「前転をした後，元の体勢にもどることができない（マット運動）」や「スペースに走ることができずにゴールまでボールを運べない（ボール運び鬼）」のように，どのようなつまずきがあるかを想定し，授業の中でつまずいている子供に「足を曲げてかかとをお尻に引きつけてみよう」と技術情報を伝えたり補助してあげたりすることが考えられる。また，「友達と同時に走ってみたらどうかな」「副読本をみてみよう」「友達の動きをみてごらん」など，必要な情報を具体的に示すことも考えられる。そうすることにより，子供が「おもしろいコト」から生まれる課題追求への意欲を失わずに学び続けることができる。このように，具体的な支援を考え，子供によって問いかけた方がよいか，技術情報を提供した方がよいか判断でき，子供が自分なりに学びを深めていくための支援を行うことができるのである。

このように，子供の情意面や技能面での実態をつかみ，「問い」や「環境」を整え，「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることで，子供たち一人一人が自分なりの学習課題をもって学習に参加・挑戦することができる。そして，学びがスタートすると，子供が問いに対してどのように学んでいるか，またどんなことにつまずいているかという子供の学びの状況を把握し，子供に寄り添うことに努め，共感する。そうすることにより，問いかけや情報提供は，子供一人一人に合った支援となり効果的となる。

4 研究方法

(1) 研究大会において

○本年度は研究主題及び副主題の解明に向け，郡市研究会を経て，第６３回徳島県小学校体育科教育研究大会（吉野川大会），第５９回中・四国小学校体育研究大会（高知大会）において研究成果を発表する。

(2) 各郡市部会において

○研究主題及び副主題の解明に向けて，授業研究会及び研修会を行い，研究成果をまとめる。

○各種研究会や研修会に自主的に参加するとともに，各郡市で取り組んだ研究内容の共有を図る。

(3) 各校において

○体育主任・体育部員を中心に，すべての子供が参加し「おもしろいコト」の共有から生まれる課題を解決していこうと挑戦することができる授業づくりについて実践を進める。

○年間カリキュラムのもと，単元学習の実施及び副読本の積極的な活用を通して，子供の主体的・対話的な学びを図り，運動好きの子供を育成し，体力や運動能力を一層向上できるようにする。

○　研究領域・研究学年（中・四国大会研究領域及び小教研ローテーション表より）

郡市	領域	担当学年	郡市	領域	担当学年
第６３回徳島県小学校体育科教育研究大会					
徳島市・名東郡	陸上	高学年	板野郡	表現	低中高（選択）
鳴門市	ボール運動	高学年	名西郡	水泳	低学年
小松島市・勝浦郡	陸上	中学年	阿波市	体つくり	低学年
阿南市	器械	低学年	吉野川市	体つくり	高学年
那賀郡	会場郡市代理		美馬市・美馬郡	保健	中学年
海部郡	ゲーム	中学年	三好市・三好郡	器械	低学年
第５９回中・四国小学校体育研究大会（高知大会）					
阿波市	体つくり（多・体）		吉野川市	ボール	高学年

第６０回　山口大会　美馬市・美馬郡（体つくり【体ほぐし】）

第６１回　鳥取大会　三好市・三好郡（保健【中・高】）

第６２回　愛媛大会　徳島市・名東郡・鳴門市（器械【中・高】陸上【高】）

＜参考文献＞

（１）文部科学省，「小学校学習指導要領解説　体育編」，東洋館出版社，２０１８
（２）文部科学省，「小学校学習指導要領解説　総則編」，東洋館出版社，２０１８
（３）徳島県小学校体育連盟，第５７回中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）実行委員会
「第５７回中・四国小学校体育研究大会（徳島大会）大会要項」，２０１９
（４）徳島県小学校教育研究会，「令和３年度　徳島県小学校教育研究会　研究主題」，２０２０
（５）松田恵示，「『遊び』から考える体育の学習指導」，創文企画，２０１６

＜補助資料＞

（＊１）

◆令和３年度　徳島県小学校教育研究会　研究主題　２　主題設定の理由

これからの社会は，Society5.0 の実現に向けて急激に変化するとともに，グローバル化も一層進展する。さらに，少子高齢化・人口減少社会の中で，社会構造や雇用環境も大きく変化するなど，先行きが不透明な時代といえる。今般の新型コロナウイルス感染症の拡がりは，私たちの予想を大きく超え，前例や慣習では対応できないことも多く，創造力を働かせることや，斬新なアイデアが求められ状況が続いている。このような社会の中で，主体性をもって生きていくためには，予測不能な社会に対応する力をつけていくという発想から，自ら変化を創り出す力をつけていくという発想への転換が必要である。

（＊２）

◆学習指導要領解説　総則編・体育編　第１章総説（Ｐ．１「１改訂の経緯及び基本方針」より）

このような時代にあって，学校教育には，子供たちが様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を解決していくことや，様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築する

（＊３）

◆学習指導要領解説　総則編（Ｐ．３）第１章　総説　１　改訂の経緯及び基本方針
（２）改訂の基本方針　②　育成を目指す資質・能力の明確化
今回の改訂では，知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちの育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら，授業の創意工夫や教科書等の改善を引き出していくことができるようにするため，すべての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びの向かう力，人間性等」の三つの柱で再整理した。

（＊４）

◆学習指導要領解説　総則編（Ｐ．４７「２教科等横断的な視点に立った資質・能力」より）
（１）児童の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。），問題発見・解決能力等の**学習の基盤となる資質・能力**
（２）児童や学校，地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し，豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた**現代的な諸問題に対応して求められる資質・能力**

＜説明＞

◆「本質的なおもしろさ」と「おもしろいコト」
昨年の実践から，「本質的なおもしろさ」「おもしろいコト」について研修部で以下のように整理してみた。

「おもしろいコトの共有」→「これから学習することはこういうことだ」ということをみんなで共通理解すること

＜運動領域＞
「本質的なおもしろさ」→その運動を成立させるもの
「おもしろいコト」　　→その運動に夢中になる出来事（ワクワクドキドキするコト）

＜保健領域＞
「本質的なおもしろさ」→探求するおもしろさ
「おもしろいコト」→『保健領域の学習内容』について考えるコト

（4）本質的なおもしろさとおもしろいコト，問いの例

領域		本質的なおもしろさ	おもしろいコト	問いの例
体つくり	体ほぐし	対話する おもしろさ	感じるコト	どうすれば感じられるか
	多様・体力	操作する おもしろさ	できるコト	どうすればできるか
器械運動	マット	移動する おもしろさ	マットの端まで行くコト	どうすればマットの端まで行けるか
	鉄棒		鉄棒の上に上がったり回ったり下りたりするコト	どうすれば鉄棒の上に上がったり，回ったり降りたりできるか
	跳び箱		跳び箱の向こうに行くコト	どうすれば跳び箱の向こうに行けるか
陸上運動	短距離走	移動する おもしろさ	スタートからゴールまで行くコト	どうすればスタートからゴールまで移動できるか
	ハードル		ハードルを走り越えてスタートからゴールまで行くコト	どうすればハードルを走り越えて，スタートからゴールまで移動できるか
	リレー		スタートからゴールまでバトンを運ぶコト	どうすればスタートからゴールまでバトンを移動できるか
	幅跳び		ねらったところに着地するコト	どうすればねらった所に着地できるか
	高跳び		バーの向こうに着地するコト	どうすればバーの向こうに着地できるか
水泳		移動する おもしろさ	目的地まで行くコト	どうすれば目的地まで行けるか
ゲーム		攻防の おもしろさ	攻めたり守ったりするコト	どうすれば攻めたり守ったりできるか
ボール運動	ゴール型	攻防の おもしろさ	シュートするコト シュートさせないコト	どうすればシュートできるか防げるか
	陣取り型		前に進むコト 前に進ませないコト	どうすれば前に進められるか進ませないようにできるか
	ネット型		ボールを落とすコト ボールを落とさせないコト	どうすれば相手コートにボールを落とせるか自コートに落とさせないか
	ベース ボール型		塁を盗るコト 塁を盗らせないコト	どうすれば塁を盗れるか盗らせないか
表現	表現	表現する おもしろさ	なりきるコト	どうすればなりきれるか
	リズム ダンス	リズムに乗る おもしろさ	リズムに合わせるコト	どうすればリズムに合わせられるか
保健		探求する おもしろさ	「保健領域の学習内容」について考えるコト	どうすれば健康な生活をおくることができるか